



父親の子育て とも育て

前川 良太

かつて父親の子育て“参加”と言われていたところから時代は変わって、近頃は“共育て”という言葉が生まれています。父親のワークライフバランスの見直しとともに、子育ての主体になっていくような取り組みとして、国を挙げて取り組んでいるところです。

そんなこといまさらかと思うくらいに、つばさのお父さんたちは育児に積極的ですよね。読みながら首を横に振るお母さんもいるかもしれません、それでも送迎や行事にもお父さんの姿がこんなにも見える園ってそうそうないのではないか。どうでしょうか。

後のページにも報告が載りますが、先日はパパと子のクッキングも行いました。企画を始めた10年ほど前は「具だくさんみそ汁とおにぎりと一緒に作って、休みの日はお父さんと子どもだけでも楽しく過ごせたら」とおみそ汁とおにぎりの企画でスタートしました。もちろん今年も普段から料理をすることがない家庭もありましたが、10年前に比べるとほとんどのお父さんが危なげなく包丁を握る姿に、家庭での父親の役割の変化を感じます。

園で毎週水曜日に地域の家庭育児をしてる親子向けに行っている子育て広場「フリースペースひだまり」にも少しずつお父さんの参加も増えています。うさぎ組の林さんや梁川さんもそんなお父さんのひとりです。6月最後のひだまりにもなんと同時に2組もお父さんの参加があったそうです。

思い起こせば私も次男の時には育児休暇を取り、毎日どこかの子育て広場に足を運んでいました。当時はコロナ禍の後半で人数制限もあり閑散とした子育て広場でした。他のお父さんと出会う機会はほとんどなかったのですが、それでも家にこもっているより、誰かと育児の時間を共有できる空間はほっとするものでした。

6月21日はお父さんたちに手伝ってもらって、園庭の砂場の整備を行いました。ぞう組の鈴木さんは仕事道具も持ち込んでくださって大助かりでした。おうかちゃんを抱きながらバケツを運ぶパワフルな梅田さんは来月予定している不審者訓練にもお手伝いしてくれることになっています。梁川さんもコツコツ何往復もバケツを運んでくれました。塩谷さんなんて筋トレできると喜んで運んでくれました(笑)折笠さんと樋口さんは同時に走っていたクラスレクの間を縫って参加してくれました。我が子だけではない園の子どもたちのため、たくさんのお父さんが日ごろから力を貸してくれています。そんな雄姿をと思っていたのですが、私も必死すぎて写真を撮るのを忘れてしまいました。ごめんなさい。



“とも育ち”と言うと、とても素敵な響きに聞こえます。だけどふと立ち止まって考えたくなります。そもそも、“共に”とは誰と誰のことを指しているのでしょうか？父と母でしょうか？ではひとり親家庭は？頼れる人がまわりにいない家庭にとって、その“共に”はどのように支えられるのでしょうか。一見きれいな言葉に聞こえる“共育て”には子育ては家庭の中の責任として押し込めてしまうプレッシャーに感じてなりません。だからこそ私たちが“共同保育園”として「一緒に子育てをする仲間になります」と懇談会やつばさっ子、日常の対話のなかでメッセージを送り続けることは、小さくても力強い積み重ねだと実感しています。父だけではない母だけない、みんなで“ともの子育てを”そんなチームでありたいと思います。